

「丹波市生涯学習基本計画」に基づく市の生涯学習関連事業調査書

No.	部署	事業名	対象者	事業の目標	事業の概要	令和4年度事業の取り組み実績	令和4年度事業の評価・課題	評価	実施区分	令和5年度以降の取り組み	1.まなび人を増やそう			2.まなび力を育てよう							3.まなび里をつくらう													
											(1)学びへの関心を高める		(2)学びを見つめる		(3)学びの場をつくる		(1)学びでつながる		(2)学びを生かす			(3)学びの力を高める				(1)学びで地域の魅力を見つける		(2)学びのまちをつくる				(3)学びからまちを活性化させる		
											①	②	①	②	①	②	③	①	②	①	②	③	①	②	③	④	①	②	①	②	③	④	①	②
1	人権啓発センター	人権啓発ラジオ番組の放送	一般	ラジオ放送を通じて市民の人権意識の高揚を図る。	あらゆる人権課題の解決や市民の人権意識の高揚に向けたラジオ放送を行う。	委託先：NPO法人たんばコミュニティネットワーク 期 間：5/9～2/25 内 容：人権啓発番組「あなたに寄り添う 心のハーモニー」として、様々な人権課題やイベント情報、中学生人権作文を放送した。 回 数：月～土曜日、週6回、1回5分、年間30週放送	○身近な学習ツールとして、様々な人権課題や市が実施する事業の情報を発信することができた。さらに、聞き逃した方にも学習していただけるように、原稿を市ホームページに掲載した。 ●効果を把握するのが難しいが、番組自体の周知を幅広い媒体で行う必要がある。	B	継続	・広報紙や市ホームページを活用し、人権啓発ラジオ番組の周知を図る。	○																							
2	人権啓発センター	人権講演会	一般	人権についての正しい理解と豊かな人権感覚を培い、人権文化が息づいた丹波市を目指す。	8月の「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間に合わせて人権講演会を開催する。	【丹波市人権講演会】 日 時 8月20日(土) 場 所 ライフピアいちじま 講演会 講師 トリアン助川さん (明治学院大学教授、作家、歌手) 「感染症と人権 小説『あん』で伝えられたこと」 参加者 180人	○人権についての関心や理解を深める機会となった。参加者の97.4%が、「人権についての関心や理解が大変深まった・深まった」と回答。満足度も平均89.6%と高評価であった。 ●より多くの市民が参加され、人権に関する理解が深まるよう内容の充実を図る必要がある。	A	継続	・「インターネットによる人権侵害」をテーマに講演会を実施する。	○																							
3	人権啓発センター	丹の里人権のつどい	一般	市内の関係機関が連携し、人権についての正しい理解と人権意識の高揚を図る。	12月の人権週間に合わせて、市、市教委、市同教、神戸地方労務局柏原支局、人権擁護委員協議会等の関係団体との共催で開催する。	【丹の里人権のつどい】 日 時 12月4日(日) 場 所 春日文化ホール 内 容 ・中学生人権作文朗読 ・人権活動事例報告 ・トーク&コンサート「自分らしく生きる」由以さん(シンガーソングライター) 参加者 253人(前年度320人)	○人権についての関心や理解を深める機会となった。参加者の81%が、「人権についての関心や理解が大変深まった・深まった」と回答。満足度も、中学生人権作文朗読：89.7%、活動事例：71.2%、トーク&コンサート89.9%と、高評価であった。 ●より多くの市民が参加され、人権に関する理解が深まるよう内容の充実を図る必要がある。	A	継続	・各団体と連携し、内容の充実を図りながら、12月に実施する。	○																							
4	人権啓発センター	地域人権教育事業	地域中学生	人権尊重社会の実現のため、地域の人権課題や生活課題を総合的かつ調和的に解決し、人権文化の高揚と共生の地域づくりを推進する。	各中学校区推進委員会等と委託契約を締結し、各中学校区において人権課題の解決に向けた人権教育を実施する。	・実施主体 各中学校の校区委員会 ・委託料 上限 各校区20万円 ・事業内容 ①中学生の現状から学校、家庭及び地域の人権課題について学ぶ学習会 ②広く住民を募って実施する地域づくり事業(講演会、展示会など) ③現地学習会 委託費 7中学校区合計 1,098,592円(上限1,400,000円)	○概ね計画どおりの内容で事業実施ができ、地域・学校における人権意識の高揚につながった。また、事前の事業に関する担当者説明により適正な事業執行ができた。 ●適正な事業執行による事業精査が必要。	A	継続	・担当者会で各校区の実行スケジュールや手法などの情報を共有し、適正な事業執行に努めるとともに、より充実した内容となるよう進める。(市内6中学校区での事業実施)																								
5	人権啓発センター	住民人権学習推進員研修会	推進員	住民人権学習推進員の役割について理解を促し、各自治会における住民人権学習を推進し、人権についての理解と人権課題の解決を図る。	各自治会の住民人権学習推進員を対象に研修会を実施する。	住民人権学習推進員を対象に市が取り組む人権のテーマや人権学習会の手法等の説明を行った。(自治公民館活動研修会と同時開催、3回) ・日 時 6月10日(金)夜、6月11日(土)午後・夜 ・内 容 住民人権学習の進め方とDVD「夕焼け」の視聴 ・出席率 48.2%(192人/398人)	○令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により住民人権学習実施率54.8%であった。このため、令和4年度の研修会において、コロナ禍における人権学習活動の取組事例や様々な学習ツールの紹介など、「新しい生活様式」に対応し、前向きに地域で取組ができるよう支援した。また、当日の様子を録画しHPに公開し、欠席者に対してもフォローした。その結果、実施率が72.5%に回復した。 ●住民人権学習推進員の活動への支援を行い、地域における学習機会の充実を図る必要がある。	A	継続	・研修会で住民人権学習の進め方などを説明するとともに、推進員からの相談に対応し、新たに人権学習の進め方ガイドブックを作成し配布するなど、引き続き各自治会などで学習会が実施されるよう支援する。																								
6	人権啓発センター	人権歴史講座	一般	第3次丹波市人権施策基本方針を踏まえ、同和問題に関する差別意識の解消を図る。	同和問題に対する正しい歴史認識を持つことにより、被差別地域に対する忌避意識の解消に繋げるため、人権歴史講座を開催する。	開催回数 3回(2回) ①講座 「部落女性と婦人水平社」 参加者33名(39名) 講師：関西大学名誉研究員 宮前千雅子さん ②「オールロマンス事件のもう一つの視点」 参加者 31名(36名) 講師：希望の家地域福祉センター所長 前川武さん ③フィールドワーク 京都方面(清水寺、耳塚ほか) 人権ボランティアガイド富楽明美さん	○部落史の時系列的な理解をさらに深めるための講座として企画開催した。参加者の理解度97%と満足度のいく歴史講座となった。 ●効果的な講座となるよう、さらに内容を充実させる必要がある。	A	継続	・前年度の参加者アンケート結果から市民の関心の高い課題を確認し、講座内容に設定するなど内容の充実を図る。また、参加者を広く募れるよう、様々な媒体で広報周知する。																								

()内は令和3年度の取り組み実績
○担当部署の自己評価
●自己評価に基づく課題

評価
A 期待以上の成果が得られた
B 概ね期待どおりの成果が得られた
C 期待したほどの成果が得られなかった
D 成果が得られなかった

